

2015 年度 招聘報告

2015 年度国際交流基金短期アポイントメントプログラムの枠で、フランス国立東洋言語文化大学 (INALCO) 日本学研究所講師で、パリのギメ美術館写真顧問でもあるクロード・エステーブ氏を、6 月 1 日から 6 月 30 日までの 30 日間、明治大学に招聘した。明治時代の日本の写真を専門とする氏には、期間中、英語による講演を一回、フランス語によるセミナーを二回行っていただいた。

1 講演 「マンガ・サムライ・写真」(英語 / 日本語字幕付きスライドショー)

於：和泉キャンパス図書館ホール

多くのマンガが幕末を舞台にしていることに注目し、まず一般に普及度の高いマンガを入り口にした講演。明治時代の写真は、漫画家の資料としてしばしば用いられている。著名な実在の写真家上野彦馬に捧げられたマンガもあるほどで、写真とマンガの関係について具体的な例を見ながら考察された。明治時代にはすでに本物の侍ではない人物が侍の装いをして写真を撮ることもあり、意外な発見に聴衆も楽しんでいた。

2 セミナー 「明治時代初期の写真における検閲と裸体」

於：駿河台キャンパスグローバルフロント

西洋人によって日本文化に導入された裸体と、写真におけるその表象、これに対する日本の反応が検討された。1872 年の違式^{いしきかい}誣違条令も考察することで、権力と芸術の関係性にも迫ることができた。前回の講演に続き、白黒写真に彩色する技術など、専門的な質問も出て、セミナーの名にふさわしく、双方向の意見交換が活発に行われた。より広い聴衆層を想定した講演と異なり、学生も多かったので、通訳つきフランス語で行われたことにも意義があった。

3 セミナー 「アルバム・コンラッド(1865)と、日本における写真の発展」

於：中野キャンパス

本学が所有するポラックコレクションの一部で、フランスの軍人コンラッドが日本滞在中に集めた写真のアルバムをめぐってのセミナー。1865 年頃の日本と西洋の写真を比較するのに理想的なケースを、理工学部の倉石志乃教授のゼミと合同で考察することができ、より専門性の高いセミナーを開催することができた。未整理の写真をどのように分類するか、散在する写真をどのように本物と認識するかなど、一般聴衆の写真に対する概念を変えるほどの興味深いセミナーとなった。コレクションの公開が待ち遠しいという声も聞かれた。